

○ 靜岡縣伊豆國田方郡伊東村大字岡字宮ノ上

郷社 葛見神社

祭神 不詳
相殿 倉稻魂神

舊と久須美神社とも、久竈大社とも、葛見大社とも稱せり、創立年代詳ならず、古來領主伊東家の崇敬社にして、世々領主より毎年供米を寄進せりと、慶長十五年及元祿十年の棟札を藏す、慶長の棟札に云く、
「藤原氏伊東正世公、伊東郷住人鈴木近江守に仰而、焼失後造立」
又元祿の棟札に云く、

「葛見大社岡村稻荷者、藤原朝臣鎌足大臣十六代後胤、工藤大夫祐高公之修造也」
と、明治の初社號を今の號に改め、同六年四月郷社に列せらる。

社殿は本殿、拜殿、其他廳舎、拜殿等を具備し、境内は九百四十六坪（官有地第一種）あり、祠傍古樟樹、圍五丈餘のものありと。
當社を以て、式の久豆彌神社に擬するものあり、即ち豆州志、神社叢錄、神祇志料、及大日本地名辭書とす、然るに豆州志稿、及特選神名牒は、熱海村湯前神社なるべきかといへるが、豆州式社考案に至り、熱海村湯前と斷定し、當社を久豆彌神社に充てたるに付て右の説をなせり。

「其の説の起れるや、伊東氏同所に住居の頃は、郷中第一繁榮なるを以て、同所を宗と久豆彌と稱し、其所の神社今葛見神社を以て、終に久豆彌神社と呼ぶこととなりしなるべし、」

境内神社
八幡神社 伊勢神明宮 春日神社 三島神社
白山神社 熊野神社 抱齋神社

例祭日 八月十六日
會計法適用 明治四十一年九月二十五日
指定年月日 告示第四百三十四號
神饌幣帛料供進 氏子戸數 百二十戸
崇敬者員數 未詳

○ 靜岡縣伊豆國田方郡中大見村大字八幡字大坪
郷社 來宮神社

祭神 五十猛命

舊と本宮とも記せり、創立年代詳ならず、但し、豆州志稿に、傳云、安元三年伊東祐清大見成家を襲ふ、成家遁れて當社に潛匿云々と見え、正保二年の棟札に、貞和年間藤原朝臣祐義宮殿新造のよし見えたり、安元三年云々は、志稿既に「信偽を知らず」といひ、正保二年の宮殿新造が、創建なるや否やは不明なりといへども、今より五百年前の創建なるは疑ふべからざるなり、古來大見十六ヶ村の總鎮守にして、社殿は一祠兩扉、近郷